



能登の生き物調査速報とは？

2024年1月の能登半島地震と9月の豪雨により、能登の自然環境は大きな変化に直面しました。加えて、気温や海水温の上昇、冬季の寒波や豪雪など、気候変動の影響も年々顕著になっています。こうした環境変化の中で、生きものたちはどのように暮らしているのでしょうか。私たちは2023年から、能登半島沿岸の海を中心に、森・川・人里を含めた生物調査を続けてきました。2025年以降は全国の研究者と連携し、誰もが参加できる調査手法の確立と情報発信を通じて、生きものの記録と環境教育を進めています。

*本調査は石川県庁や環境省、そして地元漁業組合などを通して調査に必要な許可等を得て実施しています。

調査概要

<調査日程>

2025年7月2～5日

<調査メンバー> *所属と身分は調査当時のもの

豊田 賢治	(広島大学・助教)
宮崎 勝己	(新潟大学・教授)
山守 瑠奈	(京都大学・助教)
佐藤 佑哉	(新潟大学・修士1年)
宮崎 息吹	(京都大学・学部4年)

1. 狼煙の隆起海岸の調査

今回の遠征調査では、新潟大学の宮崎勝己先生と京都大学の山守瑠奈先生の研究室メンバーとの合同調査でした。宮崎先生はクモヒトデとウミグモの専門家で、山守先生はウニや貝類が硬い地盤を削って形成する巣穴に共生する生き物を専門とされています。このチームで向かったのは能登半島の先端に位置する珠洲市狼煙です。ここは能登半島地震で1.5 mほどの隆起が生じた海岸で、新しい海岸が広がっ

ています。山守先生のチームはこの隆起海岸で見つかった大量の穿孔貝類に注目しています。もうちょっと詳しく説明すると、貝類の中には自分で固い岩盤に穴を開けてそこに生息するグループがいて、狼煙海岸にどんな種類の穿孔性の貝類がいるのかを調査するのが目的です。山守先生と学生さんが協力して貝類を岩盤から削り出し、殻の形態から種判定して、穿孔によって形成された巣穴形状の特徴を記録していきます。とても息の合ったチームプレイでした。一方、宮崎先生のグループはクモヒトデ類の採集調査とウミグモ類の生息地の視察でした。クモヒトデ類も狼煙海岸で思った以上に見つかり、学生さんが詳細な観察のために新潟大学へ持ち帰っていました。



写真1：穿孔貝類の調査風景（狼煙）



写真2：クモヒトデの調査風景（狼煙）

2. 夜間の磯調査

今回は小木にある海岸でムラサキウニに共生する甲殻類（ムラサキゴカクガニとムラサキヤドリエビ）の調査を実施しました。ムラサキウニは夜間になると海中の岸壁や岩の上に出てくるのでそれを手網で採集し、ウニ表面や口周辺に共生するカニやエビ類を探して記録します。今回は巻貝に詳しい学生さんもいたのでムラサキウニに共生する巻貝も探しましたが、それは残念ながら見つからず。普段よく目にするムラサキウニですが、よく観察すると色々な生き物の生息場としての機能も見えてきて複雑な生態系を垣間見ることができます。また、我々の研究室で扱っているイワガニもたくさん採集できました。能登半島のイワガニには高い確率で寄生虫がついているのですが、この話はまた別の機会に！



写真3：夜磯の成果のイワガニ（小木）

3. 夜の生物調査

7月になると夜も暑くなってきます。そこで、この数年我々のグループで研究を始めつつあるヤスデ類の採集を試みました。ヤスデ類は節足動物門に属するグループでムカデと近縁な関係にあります。残念ながらムカデやヤスデの仲間は海の中にはいませんが、砂浜では観察することができます。今回探したのはそういった海浜種でもなく、民家や林に生息するグループです。夜間にのど海洋ふれあいセンターの敷地内の落ち葉をめぐってヤスデを探します。懐中電灯とUVライトを併用して夜に徘徊するヤスデを見つけます。なぜUVライトかというと、今回のターゲットであるババヤスデ科のヤスデはUVライトを当てると非常に鮮やかな青色の蛍光を発するので、それを目印に探します。能登町でも夏の夜はババヤスデの仲間は数種類いることが分かりましたので、これからも調査を続けていきたいと思います。



写真4：ババヤスデ科のヤスデ（小木）

<謝辞>

本研究は、黒潮生物研究所研究助成（代表：角田）、公益信託ミキモト海洋生態研究助成基金（代表：豊田）、タカラ・ハーモニストファンド助成事業（代表：豊田）、ならびに2025年度金沢大学環日本海域環境研究センター共同研究（採択番号：25033、代表：豊田）の支援を受けて実施されました。

<問い合わせ先>

我々の活動に関するお問い合わせは以下までお願いいたします。

- ・氏名：豊田賢治（広島大学大学院統合生命科学研究科・准教授）
- ・研究室 HP: <https://sites.google.com/site/toyotadaphnia/>
- ・Email: toyotak@hiroshima-u.ac.jp

